

第70回宗議会（常会）が6月21日から28日の8日間の短縮日程で開催されました。

今議会は、昨年常会の終了後、時を経ずして更なる5億円の経常費御依頼を減額した議会無視のあり方、宗務改革（行財政改革）の内局案が中心問題になりました。代表質問、一般質問、委員会質疑・総括質問を通して当局の宗務執行に対し内局不信任決議（案）を当会派9名と無所属議員1名の計10名の賛成者で提出することに至りました。

また、「是梅陀羅」問題に関する決議（案）が全会一致で決議され、「是梅陀羅」問題をはじめ、あらゆる差別に真向いになり取り組みを重ねる歩みを進めることを宗門内外に表明しました。（東本願寺HPに掲載）

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大下で文書による審議のため、全く議論になりませんでした。予決算はじめ教化基本条例、寺院活性化支援推進等の重要案件が文書審議のみで可決されたことは課題が残る議会運営であったと言わねばなりません。

補正予算の臨時宗会が計画されましたが、感染症拡大のため未開催に終わり、今常会で補正予算を審議することになりました。予算委員会は会期短縮の中、超過密日程になったことは言うまでもありません。

経常会計は感染症拡大の影響から、収入・支出とも当初予算に比して全体的に縮小傾向ですが、補正が必要なレベルかどうかは疑問が残ります。補正は会計の全体に及んでいますが、当初予算でもマイナス決算にはならないと思われます。補正予算の眼目は、さらなる5億円減額御依頼の穴埋めとも思える「特別懇志金」の設定でしょう。この「特別懇志金」は経常費等には充当されず、五条袈裟の現物贈呈、有文地の裳附・色直綴のお仕立証の特別賞典での勧募です。先の薄海松色差貫の衣体制定と共に、衣体でもって収入増とする当局の手法をどのように思われますか。

今年も昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大は続く中、会派内では通常時期での開催の是非や延期なども論議されましたが、各派代表者会で、議論の場を確保したいと確認され、通常時期に例年通り13日間の開催が決まりました。

しかし、その後の新型コロナウイルス感染症拡大の緊急事態宣言が発出され、当会は宗務総長宛に「新型コロナウイルス感染症拡大下における宗会常会開催の延期を求める要望書」を提出しました。結果として上記の短縮日程で開催されたことになりましたが、当局は昨年同様に、あくまで年度内で宗会を閉会し年度内に予算を成立させることに固執する姿勢は変わりません。感染症拡大

下、これからの教団の在り方を決定する行財政改革案などの重要案件が、十分な説明と議論なしで決定されては禍根を残しかねません。

今議会の役割担当

質問者

代表質問	藤内 和光	25分 (質問時間)
一般質問	杉浦 明道	10分
	旦保 立子	5分
	今居 哲治	5分
	渡邊 学	5分
	藤井 学昭	5分

委員会配属

予算委員会	藤井 学昭	渡邊 学
決算委員会	今居 哲治	
運営委員会	釋氏 政昭	
特別委員会	藤内 和光	
請願委員会	旦保 立子	
懲罰委員会	篠田 穰	

内局不信任決議 (案)

発議者	藤井 学昭	
賛成演説	田澤 一明	(演説時間制限無)

本会議の代表質問、一般質問、内局不信任決議の賛成演説を掲載しています。